香川県中学校教育研究会音楽教育研究大会

事前研究の手引き

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 香川県中学校教育研究会音楽教育研究部会

　　　　　　　 　　　（東かがわ市立白鳥中学校)

１ 研究主題

　　『「音楽を通して人や社会と豊かにつながる生徒の育成」

　　　　　　　　　　　　　　 ～「音楽的な見方・考え方」を働かせた学びの実現をめざして～』

２　主題設定理由（主題の分析）

　　新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活様式を大きく変化させることとなった。生活におけるさまざまな活動が制限される中、音楽家による演奏のライブ配信をはじめ、リモートシステムを介し声や思いを重ね合わせるといった方法で、音楽のもつ力や、音楽を通して人とつながることのよろこびを再認識する機会となったことも事実である。このような時期だからこそ、音楽科教員として、人間にとっての音楽の意義に思いを馳せ、生徒が実感を伴いながら音楽のよさや美しさを味わえるような授業を展開したい。

音楽科の「学習と社会をつなぐもの」として必要な「音楽的な見方・考え方」に着目し、生徒が音楽との関わりに、どのような価値があるのかを考え、その後の人生においても「生活や社会の中の音や音楽」との関わりをより豊かなものとしてほしいとの願いから主題を設定し、研究を進めることとした。本研究において「音楽を通して人や社会と豊かにつながる」とは、音楽活動によって得られたよろこびや感動をなかまと共有する体験を積み重ね、生徒が生活の中で接する音や音楽のよさや美しさをより深く味わうことをさす。「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習をすることで、生徒が音楽を価値あるものとして認識し、「生活や社会の中の音や音楽」と豊かにつながることができると考え、本主題を設定した。

３ 研究概要

　　さぬき・東かがわ支部の音楽部会では、創作分野における「学習内容の焦点化」の研究を進めてきた。創作にあたっては、①生徒にとって身近な題材から場面を設定し、表現したいイメージを持たせること、②そのイメージにあった表現ができるように、共通事項を精選していくこととした。

４ 研究授業（授業の視点）

「学習内容の焦点化」を図るために、次の２つの視点から授業構成を考える。

（１）音楽づくりの条件の設定

　　創作の授業において「音楽的な見方・考え方」を働かせながら授業を展開するためには、音楽づくりの条件を設定し、着目させる音楽の諸要素は何なのかを明確にしなければならない。テーマやイメージを表す音楽づくりをするために、場面の数や曲の長さを絞り、着目する音楽の諸要素を設定していく。

（２）音を試しながら創作を行う

アンサンブルの創作では、複数人で同時に異なる旋律を演奏しなければならず、音を試しながら創作する場面で各個人の技能面が大きく影響する。個人で創作する場合、音を試すために楽器やタブレット端末のアプリ等を使いこなす技能が必要となる。そこで、技能面で生徒がストレスを感じずに音楽づくりができるよう、締太鼓の口唱歌を取り入れた活動を行う。また、複雑な記譜で生徒たちが感じる困難さを軽減するために、口唱歌の言葉をワークシートに書き込む形をとる。

５ 研究の成果と課題

（１）音楽づくりの条件の設定

　○　音楽づくりの条件を限定していくことで、何をどのように工夫して創作をするとよいか整

　　理できた。それに伴い、支援が必要な生徒に対する助言や、評価の観点も明確になってきた。

〇　ワークシートのふりかえり欄に毎時間の学習内容を明記することで、生徒は見通しを持っ

　て学習することができた。それぞれの時間にできたこと、考えたことをまとめることで変容を見取ることができた。

●　グループで創作活動をした場合、個人の評価をどのように行うかがずっと課題として残っ

　ている。グループ活動の後、個人で音楽づくりを行う等の工夫が必要である。

（２）音を試しながら創作を行う

○　口唱歌を取り入れたことで、楽器演奏やタブレット端末の操作が苦手な生徒でも気軽に音

を試しながら創作できるきっかけとなった。

　○　今回は、締太鼓の口唱歌のリズムを文字で書き表し、強弱や速度の変化についても記号や

言葉を使って表すこととした。今後、五線譜に音符や休符を記譜して創作をする場合、生徒にとって記譜をすること自体がつまずきとならないかを配慮する必要がある。

　●　声を出しながら創作することに抵抗を感じる生徒もいた。口唱歌ではなく、手や指で机を

打つことで自分のつくったリズムを確認する生徒もいたため、生徒にとって気軽に音を試す

ことができる方法を今後も考えていく必要がある。

（３）その他

　○　創作の授業は「作曲家の疑似体験」という捉え方をできた。つくった作品の発表が目的で

はなく、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら意図をもって工夫をし、音楽を練り上げる

過程が大切だと確認できた。

●　タブレット端末等のICT機器の活用も検討したが、現段階では手軽に音を録音し、再生す

るソフトやアプリが少ない。アプリを取り入れたとしても複雑な操作が必要になり、生徒が

ICT機器の操作に慣れる時間がかかる点は課題である。今後、創作の授業で活用できるアプ

リ等の情報収集を続けていく必要がある。